

岡山市過去3カ年解析結果

大下 祐樹

2007年8月6日

1 動機

GWRのパラメータ分布を解釈する点で、悩んでいる。ここで、平成14,15,16年度のデータでGWRを行いパラメータの空間分布の変移を眺めてみることにした。

2 データ

本研究で用いるデータは、平成14,15,16年度岡山市統計月報により計算した老人化率と、同様に平成14,15,16年度岡山県警犯罪統計書による空き巣データ、平成12年度国勢調査による住宅の種類ごとの世帯数である。

住宅の種類ごとのデータであるが、低層共同住宅を1・2階建て、中層共同住宅を3～10階建て、高層共同住宅を11階建て以上と定義してそれぞれの割合を交番管轄ごとに計算した。ここで私の不安要素として、平成14,15,16年度の解析を行う際住宅データは一貫して平成12年度国勢調査によるデータであることにある。青い空

3 空き巣発生率と地域的指標の関係

図 1:

図 2:

図 3:

図 1,2,3 に、平成 14,15,16 年度の老人化率と空き巣発生率の散布図を示す。

3.1 住宅割合

図??に、老人化率と住宅割合の散布図を示す。

図 4:

図 5:

図 6:

以上のことから、空き巣の抑制力として老人化率、誘発度として低層共同住宅割合を考えられる。

4 地理的加重回帰法

最適バンド幅を 5000(100)30000 で求めると以下のようになった。

図 7:

図 8:

図 9:

年度	バンド幅	PSS
平成 14 年度	7500	1.471307
平成 15 年度	12200	1.129663
平成 16 年度	7600	1.330650